

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700042		
法人名	医療法人社団 創造会		
事業所名	グループホーム寿		
所在地	千葉県我孫子市寿2-16-5		
自己評価作成日	平成22年2月6日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成22年4月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・認知症の状態になっても、家族、職員、地域の方々の協力のもと、本人の望まれる生活を支援しています。 ・地域行事には積極的に参加しています。(豆まき・地元祭り・福祉フェスティバルなど) ・外食会(入居者様のご希望のお店)</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム寿」は、小規模多機能ホームが併設されており、行事やレクリエーション等で交流を図ると共に、緊急時・必要時等の連携を図っており、柔軟なサービスを提供している。管理者が「我孫子市介護サービス事業連絡会」の運営委員を務めており、連絡会において市や他の介護サービス事業所と意見・情報交換が行われている。毎年、事業計画において、目標・方針を策定しており、入居者の生活の充実化に向けたサービスの向上や職員の処遇改善・介護サービスのスキルアップに取り組んでいる。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所理念を共有し、理念の実践に向かい日々取り組んでいる。	入居者が希望する生活の支援と地域との交流を目指した施設独自の理念を掲げている。理念は施設内に掲示しており、職員は常に理念を意識しながらサービスの提供に取り組んでいる。会議・新人研修等を通じて理念を周知・徹底しており、職員全員が共有している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会、回覧板や運営推進会議を通し、情報の交換や地域行事に参加し交流している。	散歩等の外出時には近隣住民と挨拶を交わす関係が築かれている。自治会に加入しており、地域のお祭りやごみ拾い等の地域行事に参加していると共に、地域ボランティアの受け入れを行なう等、地域との交流を促進している。地域住民と消防訓練を行っており、訓練終了後に参加者を対象とした介護講習を行なう等、地域への施設理解促進と災害時の協力・呼びかけを行っている。また、小・中学校の職場体験の受け入れも行なっており世代間交流も図られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の相談窓口として相談に応じている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、利用状況や取り組み内容等を話し合い、サービス向上に努めている。	入居者・家族・自治会員・民生員・地域包括支援センター職員・法人代表を構成員とし3ヶ月に1回開催されている。会議では、施設活動・外部評価結果の報告を行い、施設の理解促進に努めていると共に、地域からの要望・情報等を確認し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	支援の状況や家族状況など相談、サービス向上に向け、取り組んでいる。	管理者が我孫子市介護サービス事業連絡会の運営委員を務めており、市の担当者とは企画・運営の際に連絡調整を行なう等、連携が図られている。また、市とは、日頃の業務や入居者の相談等を通じてサービスの質の向上における協働体制が構築されている。	

【千葉県】グループホーム 寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のケア会議や申し送りにて身体拘束をしない本人の望む生活を送れるよう話し合い、ケアに取り組んでいる。	身体拘束・高齢者虐待防止のマニュアルが整備されていると共に、研修を実施しており、全職員が身体拘束排除に取り組んでいる。玄関は入居者の安全確保のため、オートロックを設置し、入館は自由になっているが、外にできる場合は職員のみが開錠できるようになっている。希望に応じて外出は可能で、適切な見守り・声がけにて入居者の自由を束縛しないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルがあり、いつでも見れるようにすると共に虐待がないよう注意をはらい防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について定期的に学んでいる。必要は方に説明し、活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改定の際は不安や疑問点を尋ね、充分説明しご理解していただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望書箱の設置、我孫子市介護相談員、運営推進会議、家族会の開催、面会時にご入居様の状態を報告、ご入居のほしいものや本人、家族の要望等を聞く機会を設け運営に反映させている。	苦情・相談窓口や意見箱を設置していると共に、家族の面会時・電話連絡時等にて直接意見や要望を確認している。挙がった意見・要望については、会議等で周知・検討し、適切な対応に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議や管理者と職員との連絡ノートを活用し反映させている。	職員会議や管理者と職員の連絡ノートを活用し、意見交換を行っており、職員の意見や要望の把握に取り組んでいる。また、随時管理者が職員に声がけをし、意見を言い易い環境作りに努めている。人事考課制度の導入を検討しており、職員の労働環境の整備・労働意欲の向上・介護の質の向上等を目指している。	

[千葉県]グループホーム 寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	創造会全体で、生きがい・働きがいのある職場を目指し、新人事制度導入を現在進行中です。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に合わせたOJTやOFFJT、SD、内部研修を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	我孫子市介護サービス事業者連絡協議会開催の研修や職員交流会、同業者との相談などを行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに、ご本人が困っていることや不安なことを言えるような機会作り、安心して利用できるような関係作りをしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに、ご家族が困っていることや不安なことを言えるような機会作り、安心して利用できるような関係作りをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が望む生活が出来るよう、必要な支援を見極め、ケアにあたっている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様から学んだり、共に支えあう関係を築き、望まれる生活を一緒に送っている。		

[千葉県]グループホーム 寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	望まれる生活を送れるよう、本人、家族、兄弟、職員の絆を大事にし、本人を支えあう関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、職員、地域の方々の協力のもと、馴染みの人や場所、思いなどが途切れないよう支援している。	契約時、入居者・家族が記入する施設独自の履歴シートを活用し馴染みの場所や人々の把握をしており、入居者の生活暦に添った支援を心掛けている。入居者の馴染みの方の来訪や手紙のやり取りが自由に行なわれ、馴染みの場所への外出支援なども実施しており、馴染みの関係継続に繋げている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立しないようアクティビティの提供、より良い人間関係が続くよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を継続し、必要に応じて相談や支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相談時や利用開始時に本人の思いや希望、意向の把握に努め、困難な場合は本人、本位に検討している。	契約時に本人・家族から意向や生活暦・身体状況等を確認している。入居者との日々の生活や会話の中から、職員全員で意見交換を行い意向を見出し、記録している。定期的に会議を行い、理念に基づいたその人らしい生活の支援を検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談時や利用開始時に生活歴や馴染みの暮らし、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や健康診断書、本人や家族から現状の把握に努めている。		

【千葉県】グループホーム 寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望や意向を取り入れ、本人が望む暮らしが送れるよう、各関係者と話し合い、介護計画を作成、変更している。	契約時に入居者・家族・関係機関から意向や生活状況を確認し、その情報をもとに、会議にて意見を出し合い、一人ひとりに合った介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価や目標の達成状況の確認を行い、必要に応じて見直しを行っている。職員は理念を念頭に置き、入居者・家族とコミュニケーションを取りながら意向を確認し、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアの実践、結果、気づきや工夫を個別に記録、情報を職員間で共有し、本人、家族の要望、意向に沿ったケアの提供、介護計画の見直しをおこなっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能性を生かした柔軟な支援をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、ボランティア、地域の方々、各関係機関と協力しながら、安全で豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診等に同行し、主治医に本人の状態や希望を代弁し、適切な治療を受けられるように支援している。	希望の医療機関への受診が可能となり、希望に応じて職員が通院の付き添い支援も行っている。緊急時・受診に同行し主治医に入居者の施設での状況や要望を伝え、適切な医療支援が行われるよう努めている。併設の小規模多機能施設に看護職員が常駐しており、適切な健康管理が行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が日常の健康管理や医療相談、医療機関活用の支援をしている。		

【千葉県】グループホーム 寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したときに安心して過ごせるよう、また早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。病院関係者との関係作りもしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い段階から、本人や家族、主治医との話し合いを繰り返し、チームとして支援に取り組んでいる。	重度化・終末期において施設として指針が明文化にされており、同意書も交わしている。早い時期から本人・家族と話し合いを重ね、関係機関と密に連絡を取り、意思を確認しながら安心と納得が得られる終末期の支援をしている。関係者と定期的に会議を行い、チームとして適切な対応の実行に向け、協力的体制が構築されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員による内部研修を実施している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難マップや職員連絡網、定期的な避難訓練の実地、自治会との合同訓練の予定など協力体制を築いている。	緊急時・災害時マニュアルが整備されていると共に、消火器・自動通報装置が設置されており、火災対策がなされている。また、施設内は、オール電化となっており、火災予防対策にも取り組んでいる。避難経路は4ヶ所確保されており、経路図を事業所内に掲示し、職員・利用者に避難方法を周知している。年2回消防署立会いによる消防訓練を実施しており、訓練では夜間を想定した訓練を実施し、職員は様々なケースに応じた災害時の対応方法を身に付けている。また、自治会員も参加しており、地域住民と災害時・緊急時における協力体制が構築されている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、個人情報の取り扱いには充分注意している。	プライバシーの保護や接遇についてのマニュアルが整備され、研修も行っている。職員はプライバシーを損ねないような言葉遣いや声掛け等に努めていると共に、丁寧で入居者の自己決定を促す言葉がけの配慮し、その人らしい生活を支援している。個人情報保護については会議等で周知・徹底しており全職員が制度や重要性を理解し、個人情報保護に取り組んでいる。	

[千葉県]グループホーム 寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望や希望を言い出しやすいよう働きかけたり、自己決定が出来るように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの望む暮らしが送れるよう、その人に合ったリズムで支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、身だしなみやおしゃれができるよう訪問理容や家族の方が本人の望むお店に行けるように努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好や疾患に合わせ、献立を作成し、入居者と職員と一緒に調理や食事、片付けをしている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備・片付け等共同で行っている。管理栄養士の資格を持つ職員のアドバイスのもと、入居者・職員が共同で献立の作成しており、栄養バランスに配慮されている。出前や外食会の実施や誕生日会等の行事食の提供等、食に対しての楽しみを支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好や疾患に合わせ、量や栄養バランス、水分量が確保できるようチェックシートに記入し支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、残存機能をいかした口腔ケアを実施している。入れ歯の方の消毒や歯科医による歯石除去も実施している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄できるよう自立にむけた支援をしている。	排泄チェックリスト・水分チェック表を活用しながら個々の排泄パターンを把握しており、適切な声かけ・誘導等を工夫しながらオムツやパットを減らし、自立に向けた支援を行っている。	

[千葉県]グループホーム 寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた飲食物の工夫や日々の体操、十分な睡眠がとれるよう支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望の曜日や時間帯、湯温、入浴時間になるべく合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者の時間や回数等は契約時に決めているが、希望・状況・体調に応じ臨機応変に対応をしている。浴室・脱衣所にはエアコン・ヒーター等が設置されており、快適な入浴を支援している。定期的に入浴前に体重チェックを行い、健康管理に気を配り、異変の早期発見に繋げている。入浴拒否に対しては、無理強いせず、日時の変更や声がけの工夫等にて対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの既往歴や薬の目的、副作用を内部研修で学んでおり、服薬の支援と症状の変化に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の入居者に合わせたアクティビティ、役割、趣味、散歩などの気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を把握し、職員や家族の協力のもと、外食に行ったり、季節を感じる場所にドライブに行ったり、地域行事にも参加している。	天候や入居者の体調・希望等に応じて、ほぼ毎日散歩を実施している。入居者の要望に応じて、定期的に行事を企画・実施し、外に出る機会を多く設けている。家族を交えての外出会やドライブ等を実施しており、家族間での楽しみを支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員や家族の協力のもと、買い物に行ったり、外食に行く支援をしている。		

[千葉県]グループホーム 寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に連絡したり、お手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な生活感や季節感を取り入れて、居心地のよい空間、においや温度、湿度など不快がないような環境にしている。	施設内の随所に行事の写真や入居者の作品が掲示されており、入居者と職員が楽しみを共有できるように工夫されている。リビングの外にはウッドデッキがあり、暖かい日にはお茶飲みや日向ぼっこができ、入居者がくつろげるように配慮されている。併設の小規模多機能ホームには自由に行き来ができ、入居者と小規模多機能ホームの利用者との交流が楽しみになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居同士でアクティビティをしたり談話したり、独りにいられるような居場所作りを提供しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は仏壇等の馴染みの家具を持ち込むことも可能となっており、全居室洋室だが希望に応じて畳を使用する事も可能であり、居心地良く生活ができるよう配慮している。エアコン・換気扇が設置されており、適切な空調管理が行われていると共に、クローゼットが備え付けられており、利便性に配慮した造りになっている。居室には鍵が設置されており、入居者のプライバシーに配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が送れるような建物構造になっている。		